



明訓

夜間中学校を起源としていることから、校章は北極星をモチーフとしている

好学の志が育つ

特集—新潟明訓中学校・高等学校

1921年に新潟の地に働く若者たちが、勉学に励みたいという思いで自ら資金を集めて講師を呼び、のちに「新潟明訓中学校・高等学校」と名付けられる夜間中学校を開校した。

新潟の若者たちの好学の志は、現在も「好学」「自治」を掲げる校訓のもと、学習に部活動にとうち込む1500名を超える明訓生に受け継がれている。

県下最大規模、約80,000m²の広大な校地には設備の整った校舎、人工芝グラウンド、野球場、テニスコート等が備わる



鹿島建物管理概要

管理開始 2004年4月

管理内容 施設管理業務（設備管理・空気環境測定 他）

管轄 新潟営業所

建築概要

施設名称 新潟明訓中学校・高等学校

所在地 新潟市江南区北山1037番地

主要用途 学校（中学・高等学校）

設計 新建築研究所

施工 鹿島建設

面積 敷地面積 79,579.00m²

延床面積 22,157.72m²

構造 RC造 他

主要設備概要

電気設備 高圧 6.6kV

設備容量 1,070kVA

太陽光発電 20kVA

衛生設備 受水槽 85.5m³×1基 他

加圧給水ポンプ方式

空調設備 冷温水発生機×2基 他

NIIGATA MEIKUN



息をするように学ぶ

明訓の生徒たちはよく学ぶ。休み時間には教室で問題集に取り組む姿がみられ、放課後には図書室の自習机があつという間に埋まる。職員室の一角に設けられたスペースには、常に先生に質問する生徒たちが訪れている。この学校には、「好学」の伝統が確かに受け継がれている。

明訓中学校・高等学校は、生徒の「自発的学習力の向上」を教育目標に掲げ、学習指導や授業を通じて生徒の好学の志を育てている。

「一日何時間勉強するかは生徒に任せ、毎日同じ時間に起床し、勉強を始め、就寝するように」と指導しています。この“3点固定”が身につくと、息をするのと同じ

ように勉強することができるようになります。生活の一部として当たり前のように勉強することが一番難しいのですが、これができる伸びない生徒はいません」と大滝校長は話す。

また、生徒が学ぶことの必要性に気付くことが、自発的な学びにつながるとも語る大滝校長は、全校集会や学校行事など様々な機会に、「何のために学ぶのか」「勉強すると何ができるようになるのか」を伝えている。

「子どもは10歳を過ぎると、“何のために”という目的を求めるようになります。教育には生徒たちが共感する“物語”が必要なのです」



大滝 祐幸 校長
「中学生・高校生の多感な時期に、見聞きすること、経験することが子どもたちの視野を広げていきます」と語る



写真上：校舎の向かいにある教育田での稲刈り（中学1・3年生）
写真右上：稲刈りの事後学習では、生徒が自由に稲作文化を探求する（中学1・2年生）
写真右下：中学3年生から高校2年生まで明訓グローバル・アクティビティが展開される（写真は中学3年生の体験交流の様子）



アイデンティティの自覚

伝統を継承しながら、明訓の教育は時代に合わせて進化を続けている。2007年に中学校を開校してからは、中高一貫体制を活かしてグローバル教育を主軸とした新しい教育を実践している。

「明訓では学びの最終目的是社会貢献であると教えています。生徒たちにはしっかりととしたアイデンティティを確立して、グローバルな視点で社会を捉え、自分には何ができるのかを考えられるようになってほしい。そのため明訓のグローバル教育は、体験型学習をプログラムの

中心に据えた明訓グローバル・アクティビティとして行っています」と大滝校長は話す。

体験学習の一つに、中学生を対象とした教育田での稲作体験がある。明訓では、稲作を単に農業体験で終わらせない。中学3年生になると外国人留学生に新潟を案内する体験交流が行われる。その時に日本の文化としての稲作を紹介するという目的があることで、生徒は自ら稲作について理解を深め、どんな紹介をしようかと考えはじめるのだという。

高校生では体験的交流の機会をさらに拡大し、世界の一流大学で学ぶ大学生・大学院生を招いてディスカッションや共同のプロジェクトを体験する。

「この経験をふまえて、5つのコースから選択するアクティビティ中心の海外研修を実施しています。こうした体験を通じ、生徒たち自ら、更なる英語力の必要性に気づき、異文化への理解を深めると同時に『日本人とは何か』、『自分とは何か』を考えるようになるのです」

東大も、甲子園も、
「・・・」も



明訓では個人としての文武両道の推奨と、学校としての文武両道を推進している。

「個人としての文武両道は、学びのための体力づくりと仲間づくりのために勧めています。勉強を続けるには気力が必要です。体力がなければ気力が続かない、気力が続けば勉強も続けられるのです」と大滝校長は話す。学校としての文武両道は、文武それぞれに高い目標を志す生徒が共存していることを指す。明訓には東大に行く生徒もいれば甲子園に行く生徒もいる。全国をめざす生徒たちと肩を並べて過ごすことで、誰も特別なわけではなく、自分と同じ普通の中学生、高校生が努力を積み重ねて力を伸ばしている、と気づくことが大切だという。

「同級生が頑張って活躍する姿をみられる環境は、すべての生徒にとてもいい刺激になります。“明訓は東大も甲子園も・・・も” これは、グローバル教育を開始して2年目に掲げたスローガンです。『・・・』は自分の夢を書き入れる部分。様々な分野で活躍する同級生がいると、夢は現実のものとして大きく膨らみます」

Activity 二つの文武両道



「建学の精神をひまとて、明訓で学びたいという生徒が集まる学校なので、奨学金などを出して優秀な生徒を集めることはしていません。しかし、志の高い生徒が集まっているため、毎年多くの部が全国大会に出場しています」と大滝校長は話す

写真上：弓道部の練習風景。2年連続でインターハイ出場選手を輩出している

写真下：昼休みを利用して練習するダンス部。2015年度に全国大会優勝を果たした



新しい教育への挑戦。
明訓はもっとすごくなる



中高一貫教育は2007年度にスタートした。2007年入学の生徒が卒業した2013年春以降、難関大学への進学者数は伸び続けている。それに満足することなく2021年の創立100周年をめざして「明訓はもっとすごくなる」をスローガンに改革を進めている。

「2017年度には現在のコース制から類型制へと移行します。これまで難関大学受験向けのコースをつくり、コースごとに特色ある学習を進めていましたが、これからは、高校からの入学生のためのI類、中高一貫生のためのII類、スポーツ分野で優秀な成績をもつ生徒のためのIII類という分け方に変わります。それぞれで生徒の学習の進捗が異なりますが、高校卒業時には目標とする大学等に進学できるレベルへの到達をめざします」

明訓が新しい教育に挑戦し続けるのは、生徒が進学した先で自信をもって過ごしてほしい、という思いがある。

「明訓での様々な取り組みは、全国的にも胸を張ることができるレベルです。経験や努力は自信にかわります。新潟のこの地区で学んだ明訓生が、それぞれの夢にのびのびと向かっていけるよう、学校も時代に合わせて改革を続けていきます」



写真上左：行事の予定を確認し、点検や修繕の予定を組み立てる

写真上右：屋上の空調設備は月に1度、定期点検を行う

写真下：施設管理のご担当者とはこまめにコミュニケーションをとり、学校の状況を把握している

い　ま 瞬間を生きる子どもたちのために

ストレスのない環境で

大滝様 現在の校舎が竣工して13年になりますが、鹿島建物さんがこまめにメンテナンスにきてくださっているので、設備や施設に大きな不具合もなく、安心して利用できています。広い校舎をすみずみまで管理していただき、ありがとうございます。

大倉 明訓生は校舎を大事に使ってくれているので、定期的にメンテナンスが必要な箇所は限られています。校舎はいつも清掃が行き届いていますし、広くて利用人数が多いですが管理しやすい施設だと感じています。

浜田様 勉強や部活動には時に我慢も必要ですから、他のことで生徒にはできる限り我慢させたくないのです。例えば、冷暖房の切り替え時期も5月1日からは冷房、10月1日からは暖房などと明確には決めず、その年の気候の変化に応じて切り替え時期の調整をお願いしています。生徒のために、気を配っていただいているわけです。

藤本 新潟は夏の暑さも冬の寒さも厳しく

く、室内環境を快適に保つには空調設備に頼らざるをえません。設備を適切に稼働させ、快適な環境づくりをサポートすることは建物管理のプロとしての務めです。

大滝様 不確定要素がたくさんあるのが学校です。主役の子どもたちはその瞬間をいつも全力で生きていますから、長く我慢することは大きなストレスになってしまいます。

大木様 蛍光灯が切れたり、トイレが詰まったり、日常的に発生する事態にも、すぐに対応してくださるので大変助かっています。必ず直してくれることを生徒たちも分かっていますので、何か不具合があったときにも安心して直るのを待っているのだと思います。

大倉 明訓生は、みんな明るくはつらつとしているので、こちらも元気をもらえるようで、訪れるのが楽しいです。密度の濃い時間を過ごしている生徒たちに、気持ちのいい学校生活をおくってほしいと思っています。

明訓を知り尽くすパートナー

大木様 大倉さんにはずいぶん長く担当していただいていますね。施設に関することは、職員が知らない過去のことも大倉さんが把握してくださっているので、いつも頼りにしています。

大滝様 何より安心なのが、明訓の校

舎や設備だけでなく、私たちが学校運営において大切にしていることを理解して、管理にあたってくださることです。生徒の集中を途切れさせないように、という気配りを感じています。

大倉 現在の校舎の竣工以来担当して

いるので、今年で13年目です。何代もの明訓生を入学から卒業まで見届けていますので、「好学」の校風がかわらず受け継がれているのを強く感じています。学びの環境を点検やメンテナンスでまもるとともに、進化する明訓教育にも対応した管理を心掛けていきたいです。

写真左より
新潟明訓中学校・高等学校 教頭
浜田 聰 様

新潟明訓中学校・高等学校 副校長
大木 敏行 様

新潟明訓中学校・高等学校 校長
大滝 祐幸 様

鹿島建物総合管理株式会社
新潟営業所 グループ長代理
大倉 祐樹

鹿島建物総合管理株式会社
新潟営業所 次長
藤本 亮司



「学び」を妨げない管理

学校を訪れるとき、いつも一生懸命に勉強する生徒の姿があります。管理を担当し始めてから、13年間、変わらない明訓の日常風景です。生徒たちの真剣な表情を見るたびに、この集中を妨げてはいけないと細心の注意を払って管理にあたっています。



生徒がストレスなく利用できるよう、開閉しづらくなったロッカー扉の蝶番を調整する